

○ 別表1 (学部の学科、研究科の専攻等の定員未充足の状況について)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
文学部	760	864	113.7%
人文学科	760	864	113.7%
教育学部	220	262	119.1%
教育学科	220	262	119.1%
法学部	850	969	114.0%
法学課程	850	969	114.0%
経済学部*	760	857	112.8%
経済学科	300	348	116.0%
経営学科	270	299	110.7%
1年次(学科分属前)	190	210	110.5%
理学部**	1200	1326	110.5%
数学科	100	96	96.0%
物理学科	70	88	125.7%
化学科	150	169	112.7%
生物科学科	160	184	115.0%
地球科学科	120	122	101.7%
1～2年次(学科分属前)	600	667	111.2%
医学部	1360	1444	106.2%
医学科(医師養成に係る分野)	600	614	102.3%
保健学科	760	830	109.2%
歯学部	360	357	99.2%
歯学科(歯科医師養成に係る分野)	360	357	99.2%
薬学部***	320	323	100.9%
薬科学科	50	34	68.0%
薬学科	30	30	100.0%
1～3年次(学科分属前)	240	259	107.9%
総合薬学科(旧)	-	[12]	-
工学部	2700	2996	111.0%
応用理工系学科	640	691	108.0%
情報エレクトロニクス学科	720	801	111.3%
機械知能工学科	480	534	111.3%
環境社会工学科	840	900	107.1%
3年次編入学(各学科共通)	20	70	350.0%
材料工学科(旧)	-	[7]	-
応用化学科(旧)	-	[1]	-
情報工学科(旧)	-	[7]	-

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
電子工学科(旧)	-	[6]	-
システム工学科(旧)	-	[8]	-
応用物理学科(旧)	-	[10]	-
原子工学科(旧)	-	[3]	-
機械工学科(旧)	-	[4]	-
土木工学科(旧)	-	[8]	-
建築都市学科(旧)	-	[1]	-
環境工学科(旧)	-	[5]	-
資源開発工学科(旧)	-	[2]	-
農学部*	860	953	110.8%
生物資源科学科	108	117	108.3%
応用生命科学科	90	97	107.8%
生物機能化学科	105	114	108.6%
森林科学科	108	118	109.3%
畜産科学科	69	79	114.5%
農業工学科	90	103	114.4%
農業経済学科	75	85	113.3%
1年次(学科分属前)	215	240	111.6%
獣医学部	240	262	109.2%
獣医学科	240	262	109.2%
水産学部**	860	881	102.4%
海洋生物科学科	108	109	100.9%
海洋資源科学科	106	89	84.0%
増殖生命科学科	108	109	100.9%
資源機能化学科	108	109	100.9%
1～2年次(学科分属前)	430	465	108.1%
水産海洋科学科(旧)	-	[6]	-
海洋生産システム学科(旧)	-	[19]	-
海洋生物生産科学科(旧)	-	[10]	-
海洋生物資源化学科(旧)	-	[7]	-
学士課程 計	10490	11494	109.6%
[学科、専攻の廃止後も在籍する学生数計]	-	[116]	-
文学研究科	236	202	85.6%
思想文化学専攻	36	34	94.4%
歴史地域文化学専攻	76	58	76.3%
言語文学専攻	76	69	90.8%
人間システム科学専攻	48	41	85.4%
教育学研究科	-	-	-
教育学専攻(旧)	-	[4]	-

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
法学研究科	40	44	110.0%
法学政治学専攻	40	44	110.0%
経済学研究科	60	51	85.0%
現代経済経営専攻	60	51	85.0%
医学研究科	60	61	101.7%
医科学専攻	60	61	101.7%
工学研究科	680	886	130.3%
応用物理学専攻	68	84	123.5%
有機プロセス工学専攻	50	67	134.0%
生物機能高分子専攻	40	54	135.0%
物質化学専攻	34	42	123.5%
材料科学専攻	60	90	150.0%
機械宇宙工学専攻	42	56	133.3%
人間機械システムデザイン専攻	40	48	120.0%
エネルギー環境システム専攻	40	51	127.5%
量子理工学専攻	34	50	147.1%
環境フィールド工学専攻	46	45	97.8%
北方圏環境政策工学専攻	36	60	166.7%
建築都市空間デザイン専攻	36	51	141.7%
空間性能システム専攻	44	56	127.3%
環境創生工学専攻	56	64	114.3%
環境循環システム専攻	54	68	125.9%
国際広報メディア研究科			
国際広報メディア専攻(旧)	-	[4]	-
情報科学研究科	354	429	121.2%
複合情報学専攻	48	63	131.3%
コンピュータサイエンス専攻	48	64	133.3%
情報エレクトロニクス専攻	78	87	111.5%
生命人間情報科学専攻	66	66	100.0%
メディアネットワーク専攻	60	82	136.7%
システム情報科学専攻	54	67	124.1%
水産科学院	180	214	118.9%
海洋生物資源科学専攻	86	101	117.4%
海洋応用生命科学専攻	94	113	120.2%
環境科学院	322	291	90.4%
環境起学専攻	88	72	81.8%
地球圏科学専攻	74	66	89.2%
生物圏科学専攻	104	100	96.2%
環境物質科学専攻	56	53	94.6%

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
理学院	406	412	101.5%
数学専攻	92	78	84.8%
化学専攻	112	133	118.8%
量子理学専攻	48	45	93.8%
宇宙理学専攻	36	34	94.4%
自然史科学専攻	78	80	102.6%
生命理学専攻	40	42	105.0%
農学院	300	315	105.0%
共生基盤学専攻	96	71	74.0%
生物資源科学専攻	84	90	107.1%
応用生物科学専攻	36	63	175.0%
環境資源学専攻	84	91	108.3%
生命科学学院	270	288	106.7%
生命科学専攻	270	288	106.7%
教育学院	90	100	111.1%
教育学専攻	90	100	111.1%
国際広報メディア・観光学院	84	106	126.2%
国際広報メディア専攻	54	69	127.8%
観光創造専攻	30	37	123.3%
保健科学院	52	63	121.2%
保健科学専攻	52	63	121.2%
修士課程 計	3134	3462	110.5%
[学科、専攻の廃止後も在籍する学生数計]	-	[8]	-
文学研究科	177	242	136.7%
思想文化学専攻	27	41	151.9%
歴史地域文化学専攻	57	69	121.1%
言語文学専攻	57	77	135.1%
人間システム科学専攻	36	55	152.8%
教育学研究科			
教育学専攻(旧)	-	[59]	-
法学研究科	45	45	100.0%
法学政治学専攻	45	45	100.0%
経済学研究科	45	32	71.1%
現代経済経営専攻	45	32	71.1%
経済システム専攻(旧)	-	[8]	-
現代経済経営専攻(募集停止)(旧)	-	[4]	-
経営情報専攻(旧)	-	[1]	-
理学研究科			
数学専攻(旧)	-	[7]	-

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
物理学専攻(旧)	-	[1]	-
化学専攻(旧)	-	[4]	-
生物科学専攻(旧)	-	[5]	-
地球惑星科学専攻(旧)	-	[6]	-
医学研究科	410	431	105.1%
医学専攻	300	269	89.7%
生体機能学専攻※H18	20	4	20.0%
病態制御学専攻※H18	30	59	196.7%
高次診断治療学専攻※H18	24	47	195.8%
癌医学専攻※H18	12	30	250.0%
脳科学専攻※H18	14	8	57.1%
社会医学専攻※H18	10	14	140.0%
外科系専攻(旧)	-	[4]	-
歯学研究科	168	143	85.1%
口腔医学専攻	168	143	85.1%
工学研究科	255	248	97.3%
応用物理学専攻	24	22	91.7%
有機プロセス工学専攻	18	15	83.3%
生物機能高分子専攻	15	17	113.3%
物質化学専攻	15	14	93.3%
材料科学専攻	21	18	85.7%
機械宇宙工学専攻	15	16	106.7%
人間機械システムデザイン専攻	15	10	66.7%
エネルギー環境システム専攻	15	15	100.0%
量子理工学専攻	15	11	73.3%
環境フィールド工学専攻	15	9	60.0%
北方圏環境政策工学専攻	15	18	120.0%
建築都市空間デザイン専攻	15	13	86.7%
空間性能システム専攻	15	12	80.0%
環境創生工学専攻	21	24	114.3%
環境循環システム専攻	21	34	161.9%
量子エネルギー工学専攻(旧)	-	[1]	-
都市環境工学専攻(旧)	-	[3]	-
環境資源工学専攻(旧)	-	[1]	-
システム情報工学専攻(旧)	-	[1]	-
電子情報工学専攻(旧)	-	[1]	-
農学研究科			
生物資源生産学専攻(旧)	-	[6]	-
環境資源学専攻(旧)	-	[10]	-

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
応用生命科学専攻(旧)	-	[1]	-
獣医学研究科	96	91	94.8%
獣医学専攻	96	91	94.8%
水産科学研究科			
環境生物資源科学専攻(旧)	-	[6]	-
生命資源科学専攻(旧)	-	[4]	-
地球環境科学研究科			
地圏環境科学専攻(旧)	-	[2]	-
生態環境科学専攻(旧)	-	[4]	-
物質環境科学専攻(旧)	-	[2]	-
大気海洋圏環境科学専攻(旧)	-	[1]	-
国際広報メディア研究科			
国際広報メディア専攻(旧)	-	[15]	-
情報科学研究科	126	153	121.4%
複合情報学専攻	12	25	208.3%
コンピュータサイエンス専攻	24	18	75.0%
情報エレクトロニクス専攻	24	26	108.3%
生命人間情報科学専攻	18	21	116.7%
メディアネットワーク専攻	24	41	170.8%
システム情報科学専攻	24	22	91.7%
水産科学院	105	96	91.4%
海洋生物資源科学専攻	51	47	92.2%
海洋応用生命科学専攻	54	49	90.7%
環境科学院	192	153	79.7%
環境起学専攻	45	25	55.6%
地球圏科学専攻	45	41	91.1%
生物圏科学専攻	69	66	95.7%
環境物質科学専攻	33	21	63.6%
理学院	255	190	74.5%
数学専攻	51	23	45.1%
化学専攻	66	62	93.9%
量子理学専攻	30	12	40.0%
宇宙理学専攻	24	27	112.5%
自然史科学専攻	60	47	78.3%
生命理学専攻	24	19	79.2%
農学院	150	152	101.3%
共生基盤学専攻	48	50	104.2%
生物資源科学専攻	42	31	73.8%
応用生物科学専攻	18	23	127.8%

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
環境資源学専攻	42	48	114.3%
生命科学院	126	114	90.5%
生命科学専攻	126	114	90.5%
教育学院	63	47	74.6%
教育学専攻	63	47	74.6%
国際広報メディア・観光学院	51	39	76.5%
国際広報メディア専攻	42	28	66.7%
観光創造専攻	9	11	122.2%
博士課程 計	2264	2176	96.1%
[学科, 専攻の廃止後も在籍する学生数計]	-	[157]	-
法学研究科	300	241	80.3%
法律実務専攻	300	241	80.3%
経済学研究科	40	48	120.0%
会計情報専攻	40	48	120.0%
公共政策学教育部	60	84	140.0%
公共政策学専攻	60	84	140.0%
専門職学位課程 計	400	373	93.3%

(注1) ※18を付した研究科の専攻は、平成18年度をもって募集を停止した専攻を示す。

(注2) \*を付した学部の各学科における収容定員及び収容数は、2～4年次を示す。

(注3) \*\*を付した学部の各学科における収容定員及び収容数は、3～4年次を示す。

(注4) \*\*\*を付した学部の各学科における収容定員及び収容数は、4年次を示す。

○ 計画の実施状況等

1 定員充足率が90%未満の主な理由

【学士課程】

学部の学科等	主な理由
薬学部 薬科学科	平成 18 年度の組織再編後初めての3年次後期における学科分属であったが、留年し学科に分属できなかった者の数が、直接、薬科学科の収容数に影響したものである。年次進行に伴い留年者が進級し解消する予定である。
水産学部 海洋資源科学科	平成 18 年度の組織再編後2回目の2年次後期における学科分属であったが、留年し学科に分属できなかった者の数が、直接、海洋資源科学科の収容数に影響したものである。年次進行に伴い留年者が進級し解消する予定である。

【修士課程】

研究科の専攻等	主な理由
文学研究科 歴史地域文化学専攻 人間システム科学専攻	修士課程修了後の就職状況の悪化及び教員免許(専修免許状)取得希望者の減少により、志願者が減少し、収容数が下回った。
経済学研究科 現代経済経営専攻	近年の経済状況の悪化に加え、学生確保のための広報不足及び学生の質を確保するため厳正な入学選抜を実施したことにより、学生を確保できず収容数が下回った。
環境科学院 環境起学専攻 地球圏科学専攻	近年の経済状況の悪化により学資の確保が困難なこと及び学生確保のための広報が不足していたことにより志願者が減少し、収容数が下回った。
理学院 数学専攻	近年の経済状況の悪化により学資の確保が困難なこと及び学生確保のための広報が不足していたことにより志願者が減少し、収容数が下回った。
農学院 共生基盤学専攻	異動した教員の分野における進学希望者が減少したこと及び学生募集に際し、専攻の領域横断的な特色につ

研究科の専攻等	主な理由
	いての広報が不足していたことにより、志願者が減少し、収容数が下回った。

【博士後期課程】

研究科の専攻等	主な理由
経済学研究科 現代経済経営専攻	近年の経済状況の悪化による就職難に伴い、志願者が減少し、収容数が下回った
医学研究科 医学専攻 生体機能学専攻※H18 脳科学専攻※H18	医学専攻については、平成 16 年度から必修化された新臨床研修制度の影響により、臨床系分野の志願者が減少し、収容数が下回った。 生体機能学専攻及び脳科学専攻は、平成 19 年度の組織再編に伴い、学生募集を中止しており、年次進行で解消する予定である。
歯学研究科 口腔医学専攻	平成 18 年度から義務付けられた1年間の卒後臨床研修制度の影響及び学生確保のための広報が不足していたことにより、志願者が減少し、今年度もその影響により、収容数が下回った。
工学研究科 有機プロセス工学専攻 材料科学専攻 人間機械システムデザイン専攻 量子理工学専攻 環境フィールド工学専攻 建築都市空間デザイン専攻 空間性能システム専攻	近年は経済状況が悪化しているが、企業等からの工学系修士課程修了者のニーズが高く、多くの修士課程修了者が就職したことにより、志願者数が減少し、収容数が下回った。 なお、秋期入学の実施により、10月入学者を工学研究科全体で25名受け入れた。
情報科学研究科 コンピュータサイエンス専攻	近年は経済状況が悪化しているが、企業等からの情報系修士課程修了者のニーズが高く、多くの修士課程修了者が就職したことにより、志願者数が減少し、収容数が下回った。
環境科学院 環境起学専攻 環境物質科学専攻	近年の経済状況の悪化により学資の確保が困難なこと及び学生確保のための広報が不足していたことにより志願者が減少し、収容数が下回った。
理学院	これらの分野における研究開発職の需要が低迷して

研究科の専攻等	主な理由
数学専攻 量子理学専攻 自然史科学専攻 生命理学専攻	いること及び学生確保のための広報が不足していたため、収容数が下回った。
農学院 生物資源科学専攻	関連業界、研究機関からの修士課程修了者に対する求人増及び学生確保のための広報が不足していたことにより、志願者が減少し、収容数が下回った。
教育学院 教育学専攻	近年の経済状況の悪化による博士後期課程修了者の就職難に伴い、志願者が減少し、収容数が下回った。
国際広報メディア・観光学院 国際広報メディア専攻	修士課程修了者の就職状況が順調であること及び広報不足により、志願者が減少し、収容数が下回った。

【専門職学位課程】

研究科の専攻等	主な理由
法学研究科 法律実務専攻	入学定員は100名であり、収容定員は3年課程として300名となっているが、入学者のうち半数が法学既修者を対象とした2年課程であり、2年修了時に半数の50名が修了するため、収容数を下回っている。(実質的な収容定員は250名である)。

2 秋期入学の実施状況及び入学者数

修士課程	法学研究科	6名
	工学研究科	18名
	情報科学研究科	4名
	環境科学院	4名
	理学院	10名
	農学院	8名
	生命科学院	3名
博士後期課程	法学研究科	4名
	工学研究科	25名
	獣医学研究科	7名
	情報科学研究科	16名
	水産科学院	4名
	環境科学院	8名
	理学院	25名
	農学院	12名
生命科学院	13名	
国際広報メディア・観光学院	4名	